



俵小学校

所在地：金沢市俵町へ乙22

電話：076-221-3352 FAX：076-221-3352

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/tawara-e/>

校長名：上野 貴司

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	1	4	2	1	6	2	2	18
学級数	1		1		1		2	5

	校長	教頭	教諭等							養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学					
職員数	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	0	11	

1 平成20年度学力向上の取り組み内容の検証

(1) 成果について

平成20年度における27項目中、家庭での生活習慣の「テレビ・ゲームを制限する」の1項目を除いてすべて実践され、それらの成果は「成果あり（A評価）」若しくは「どちらかといえば成果あり（B評価）」との結果がアンケートから得られた。「成果あり（A）」とされたものは、全体の62%であった。学習環境を整えること、小規模学校同士の交流、学校研究の取組が、よい成果を生んだと思われる。

一方、全員が「どちらかといえば成果あり（B）」とされたものは、次のとおりである。

- ・説明したり、文章化したりする活動を増やす
- ・教室の整理整頓に気を配る
- ・地域の人材をゲストティーチャーに招聘する
- ・地域の自然・人・もの・文化を教材として活用する

これらの内容については、今後ともさらに継続していなければならないと思われる。

(2) 課題について

課題としては、さらに確実な基礎的な学力を身に付けるために、基本的な生活習慣や学習ルールをしっかりと身に付けていくこと。少人数環境を生かし、子どもたち一人一人の力をきめ細かな指導によりさらに伸ばしていくことと考える。

2 学力の現状分析

(1) 国語について

- ア 概ね満足できるもの・・・「書く」、「読む」能力
- イ 努力を要するもの・・・「話す・聞く」能力、立場や意図を明確にして話したり聞いたりすること「言語についての知識・理解」ローマ字の濁音や半濁音、接続詞の使い方

(2) 算数について

- ア 概ね満足できるもの・・・「数と計算」、「量と測定」
- イ 努力を要するもの・・・「数量関係」グラフから必要な数量を読み取る、グラフの特徴をもとに、数量の変化の様子をとらえる百分率や割合

(3) 社会

- ア 概ね満足できるもの・・・地域学習、石川県の地理についての理解国土と気候
- イ 努力を要するもの・・・縮尺と実際の距離経度と緯度

(4) 理科

- ア 概ね満足できるもの・・・観察・実験の技能・表現自然事象についての知識・理解
- イ 努力を要するもの・・・科学的な思考斜めに傾けた金属棒の温まり方、方位磁針の使い方、月の観察記録の読み取り、電流の大きさとモータの回り方、てこを利用した道具におけるてこのきまり

(5) 学習意欲・学習習慣

- ア 概ね満足できるもの・・・各教科の関心・意欲・態度朝読書も落ち着いて取り組む

イ 努力を要するもの・・・宿題以外の自発的な学習家庭での読書の時間の確保

3 学力向上の取組

- (1) 「個に応じた指導」で基礎的な力をつける
 - ア 国語・・・漢字の筆順の習熟、文章の読み取り、鉛筆の持ち方の徹底
 - イ 算数・・・「数量関係」、百分率や割合
 - ウ 社会・・・都道府県名や日本の主な地形名を覚えること地図や産業・歴史の資料読み取り
 - エ 理科・・・パフォーマンステスト、観察カード・実験カードの充実

- (2) 「授業内容の工夫」で思考・判断力を伸ばす
 - ア 説明したり、文章化したりする活動を増やす
 - イ 体験的に学習し、それをまとめる時間、発表する場面をつくる

- (3) 学習環境を整える
 - ア 教室の整理整頓に気を配る
 - イ 全員の掲示を行い、個を生かす評価をする
 - ウ 学習したことが思い出せるような掲示にする

- (4) 学習意欲・態度の喚起・育成
 - ア 毎朝15分間の朝読書を実施する
 - イ 国語辞典を手元に置き、自主的に調べる習慣をつける
 - ウ 児童が毎月1編の詩を書く時間を設定し、できた詩は集会で発表、講評する
 - エ 公開授業をして、児童の意識を高める

- (5) 家庭との連携による基本的な学習習慣と生活習慣の定着
 - ア 家庭での学習習慣
 - (ア) 全学年、音読と日記を毎日の宿題に加える
 - (イ) 家庭での学習時間、読書時間を確保する
 - (ウ) 高学年を中心に自主学習を進める
 - イ 家庭での生活習慣
 - (ア) 早寝・早起き・朝ご飯、挨拶、手伝い、親子のコミュニケーションを確保する
 - (イ) テレビ・ゲームの時間を制限する

- (6) 地域の教育力の活用
 - ア 地域の人材をゲストティーチャーを招聘する
 - イ 地域の自然・人・もの・文化を教材として活用する

4 その他の取組

- (1) 「子ども白書」の作成と継続による教育の接続
 - ア 学習面・生活面・道徳面・体力面から個人をとらえる
 - イ 児童自身・保護者・教師の3者から個人をとらえる

- (2) 体育的行事によるがんばる心の育成
 - ア 夏・・・3,000mをめざす水泳練習と記録会
 - イ 秋・・・マラソン練習と大会
 - ウ 冬・・・縄跳び練習と大会

- (3) へき地複式学校との交流
 - ア 児童の交流・・・複数校合同の社会見学、スポーツ交流会
 - イ 教師の交流・・・授業研究会、紀要の発行